



グローバル・ワン戦略の第一歩

2010年3月23日

日本通信株式会社

代表取締役社長
三田 聖二

日本モデルで米国携帯事業者とレイヤー2接続契約

レイヤー2接続によるMVNO事業モデル

総務大臣裁定（2007年11月30日）

NTTドコモと実現（2009年3月17日）

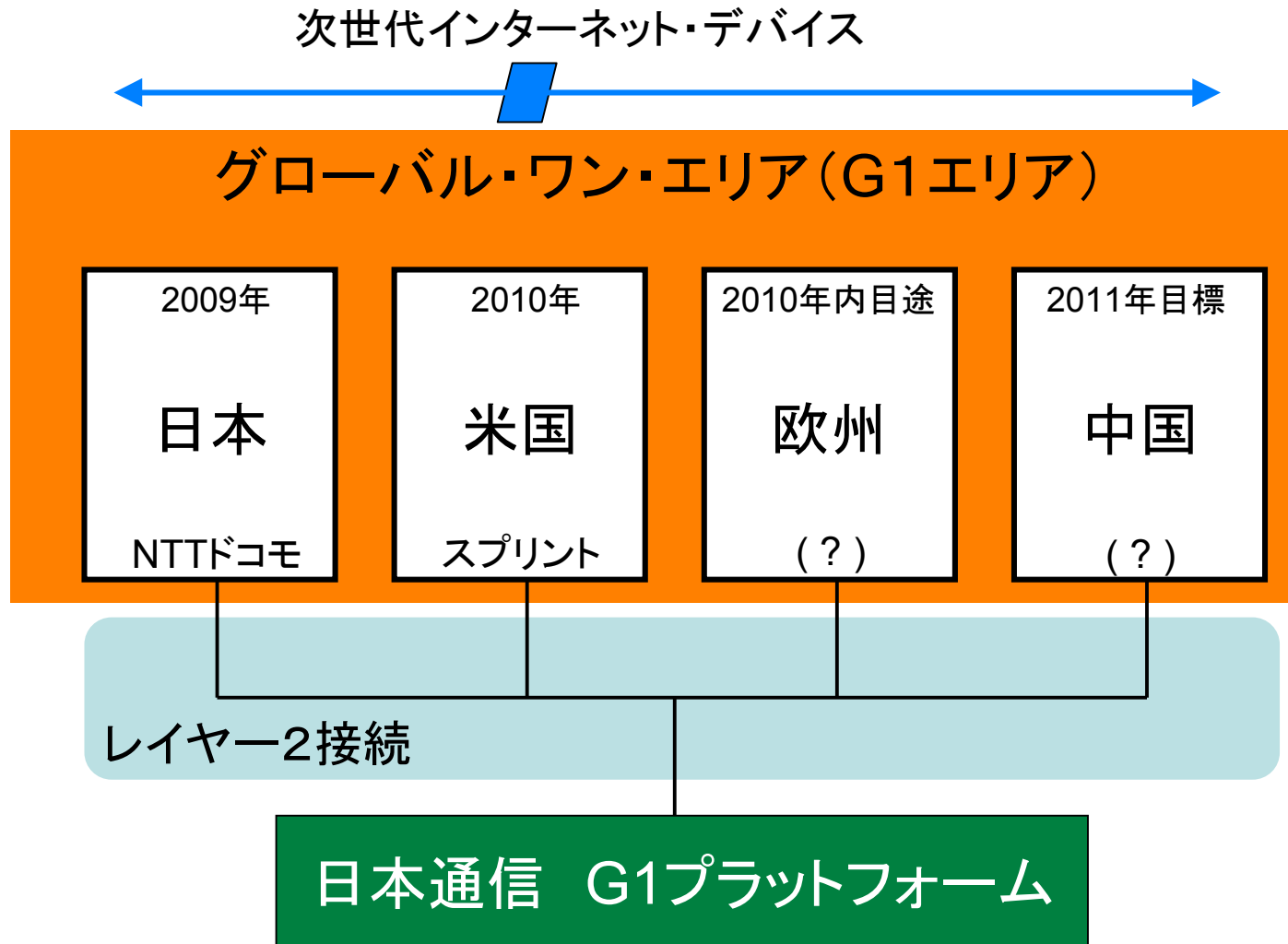
スプリントとのレイヤー2接続契約

米国第3位の携帯事業者

48百万人の加入者

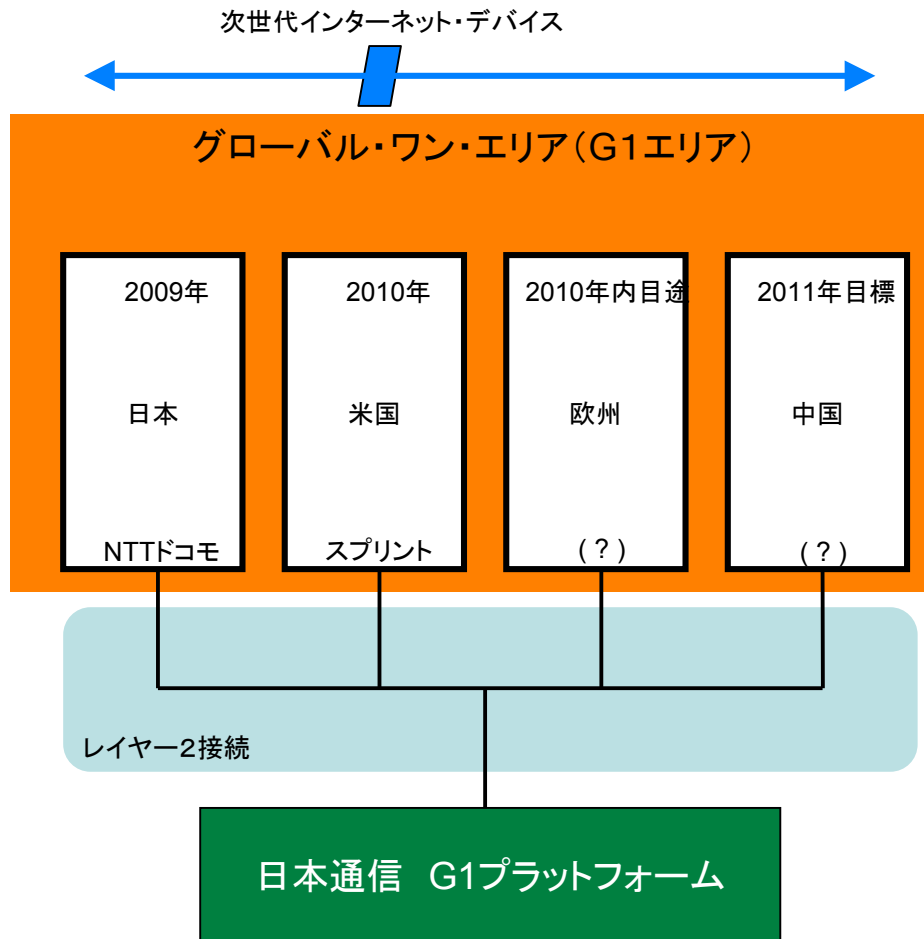
日本通信のグローバル・ワン戦略

ワンには、OneとWANの両方の意味が



グローバル・ワン戦略の推進施策

施策

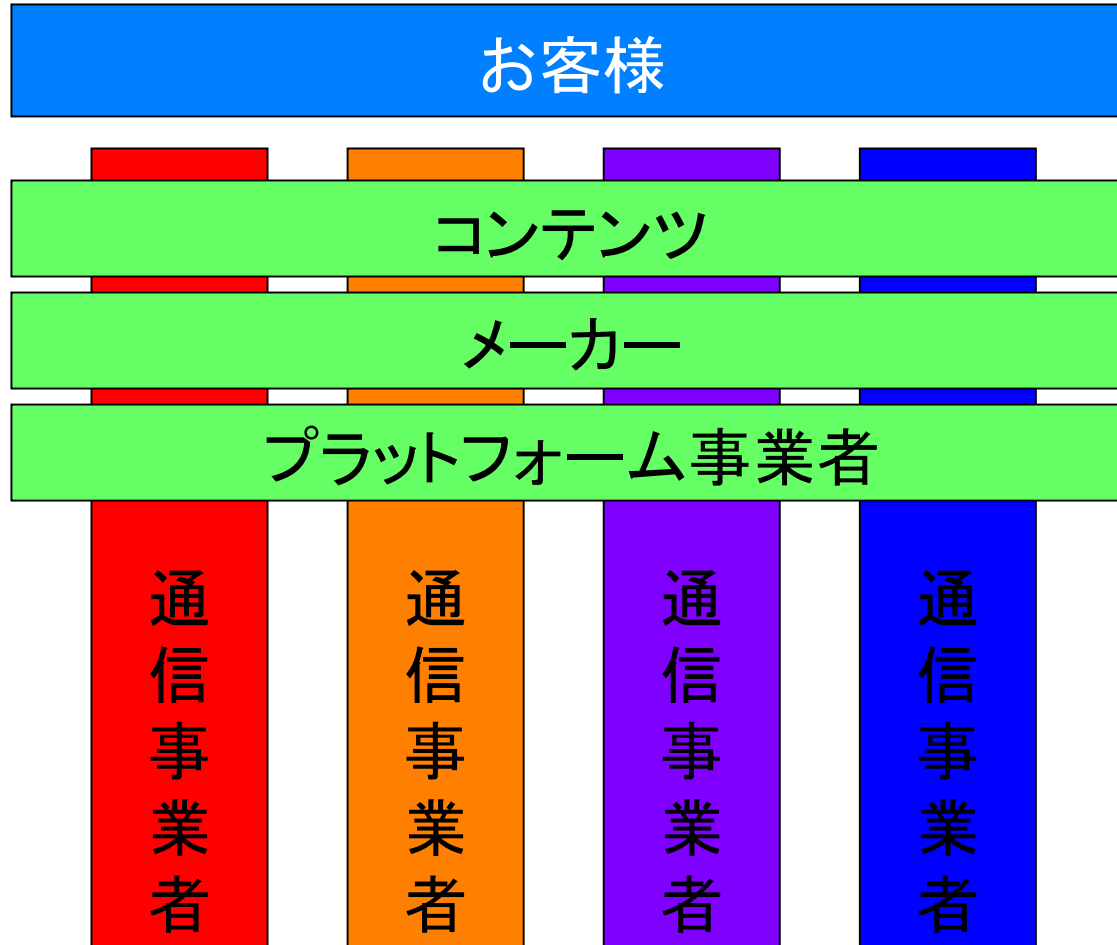


- ① 各地域の事業者とのレイヤー2接続を実現
- ② G1プラットフォームを完成
- ③ G1-SIMの開発
- ④ マルチ・携帯チップの普及 (W-CDMA、EV-DO他)
- ⑤ G1ユビキタス専用線の提供 (SIMとプラットフォーム間)
- ⑥ 単一料金プランの提供 (東京、ニューヨーク、ロンドン、上海が全て国内扱い)

期待される製品・サービス

- 日本で培ったノウハウ・ベースの米国での展開
 - リアルタイム・チャージ方式（ドッチーカ方式）
 - ユビキタス専用線
- (2) マルチ・携帯チップによるG1エリア対応製品の登場
 - 既にノートPCでは搭載開始
- (3) G1単一料金の提供
 - 海外利用が格段に安く（ローミング不要）
- (4) G1-SIMの登場
 - これを挿せば、グローバルを国内エリアに

縦と横



グローバル化の
ための国際標準
なのだが...

法制度、設備の制約からドメスティック